

# Rihoの ドイツ便り

## 余暇も通勤も自転車で！

No.54

自転車道が整備されているドイツでは、自転車の市民権は日本よりずっと高い。人口の約10%が、自転車を主な交通手段としており、9%が公共交通機関、24%が徒歩で、残りは車である。

自転車道は街中で整備されているだけでなく、国中縦横無尽に自転車道のネットワークが張り巡らされている。家庭の自転車保有率は80%と高く、片道1時間くらいなら通勤でもへっちゃら。ヘルメットをかぶってびゅんびゅんと走る。ドイツ自転車協会の会員は12万5000人だが、自転車愛好者はもっと多いだろう。



自転車は基本的に車両扱いだが、自転車道は歩道上にあるものと、車道の脇にあるものがある。最近は歩道上よりも、自動車道の端を線引きや色塗りして自転車専用道路としてしているところが多い。自転車専用信号もあちこちにある。自転車道を歩いているはねられても歩行者の責任になるため、要注意だ。時速30キロ区域では、自転車は自動車と同等に走ることができる。

ドイツでは環境への影響からも、車を減らして自転車の使用を促進している。例えばハノーファーでは、現在13%の使用率を2025年には25%にあげたいとしている。駅前には大きな駐輪場が整備され、レンタル自転車も用意されている。

ドイツ鉄道では終日4.5ユーロ（約500円）で自転車を列車に積み込むことができる。路面電車は都市によって異なるが、朝夕のラッシュ時を除いて無料で持ち込み可能なところが多い。週末は終日OKなので、サイクリングを楽しんだあと電車でのんびり戻ってくる家族連れがよく見られる。夏にはさまざまなサイクリングツアーがあり、一週間かけてドレスデンからハンブルクまで走る人も。バスが伴走するので、体調が悪いときは休憩できるし安心だ。

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツ便り



夏休み4週間日本に滞在し、明はそのうちの2週間、幼稚園に通いました。幼稚園では言われていることは理解できたようですが、最初の1週間はあまりしゃべらず。しかし2週目からドイツ語はすっかり消え、日本語が雪崩を打って出てきました。

ドイツで口数が少なかったのは、親から日本語とギリシア語で話しかけられ、保育園ではドイツ語と、言語が混在していたからか。日本にきてひとつに絞られると、ぱーっと日本語があふれて四六時中しゃべるようになりました。ドイツに戻ってからも、しばらくはパパにも保育園でもひたすら日本語でした。

そういえばドイツに私の妹が来て英語で会話していると、明は「だめー、だめー」といつも邪魔をします。自分の理解できない言葉が話されているのが気に入らないみたい。

さて、ここ10日ほど明はパパと一緒にギリシアの実家に帰っています。ギリシア語漬けになるのに10日はちと短いか。私はドイツでひとりのびのびしながら、明が何語で話しかけてくるか、楽しみに帰りを待っています。